

専門分野

【母性看護学の考え方】

母性看護学は、次世代が健康に生まれ育つことを願いに、女性の生涯を通じての性と生殖に関する健康の維持・増進、疾病予防を目的に、女性の心身の成長、生殖過程、女性特有の疾患と看護について学ぶ。

日本の女性の平均寿命は 87.74 歳(令和 2 年)と世界第一位である。日本の女性のライフコースは過去 50 数年で大きく変化した。高学歴化、晩婚化に伴う第一子出産年齢の上昇、出生児数の減少や、未婚化などが挙げられる。また、女性の社会進出など、女性の生涯や役割の多様化がみられ、男性の育児参加など、育児環境も変化している。さらに、人格形成に深くかかわる「母性・父性のあり方」、「ジェンダー」や「セクシャリティ」に対しての社会情勢の変化が起きている。

医療においては、生殖補助医療の進歩・発展、周産期医療の進歩により、生命をめぐる倫理的・法的・社会的問題が課題となっている。

以上のことから、母性看護の役割は拡大してきている。看護の対象は、妊産褥婦とその子どものみならず、パートナーとしての男性、子どもを育てる家族、その家族を取り巻く地域社会をも含み学ぶ必要がある。母性に関する健康障害の予防と回復に寄与するために、対象の持てる力を引き出せるように促し、女性および家族の生活を整える看護実践力を身につけることができる学習内容とする。

母性看護学概論では、「母性・父性」「親になること」「愛着・母子相互作用」「セクシュアリティ」「リプロダクティブヘルス」「ヘルスプロモーション」などの母性看護の基盤となる概念と、母性看護を取り巻く社会の変遷と現状を関係法規も含め理解した上で、母性看護の対象を理解し、母性看護実践に必要な基礎的知識・態度を学ぶ。さらに、母性看護における倫理的問題について、看護者としての倫理観を基に、「女性の意思決定を支える」ことを考えさせていく。

母性看護援助論Ⅰでは、女性の生涯を通じての性と生殖に関する健康の維持・増進に目をむけ、女性生殖器の解剖生理と疾患の理解、生殖過程として妊娠・分娩・産褥の正常経過と異常(健康障害)を学ぶ。

母性看護援助論Ⅱでは、妊娠・分娩・産褥・新生児期の臨床看護援助の実践を学ぶ。

母性看護援助論Ⅲでは、対象のその人らしさや持てる力を理解し、親になる過程および家族適応にむけたウェルネス看護診断に基づく看護過程を学ぶ。

【目的】

母性看護の基盤となる概念を理解し、女性の生涯を通じての健康の維持・増進・疾病予防のために、女性の心身の成長、生殖過程、女性特有の疾患と看護を理解し、対象のその人らしさや持てる力を活かした看護実践を行うための基礎的知識・技術・態度を修得する。

【目標】

1. 母性看護の基盤となる概念を理解し、母性看護の意義と役割を理解する
2. 母性看護の取り巻く社会の変遷と現状、母性に関する関係法規を理解する
3. 女性のライフステージ各期の特徴と健康問題、女性特有の疾患と看護を理解する
4. 妊娠・分娩・産褥および新生児期を理解し、親になる過程や家族適応を支える看護実践を行うための基礎的知識・技術・態度を習得する

【構成及び計画】

科目	単位数	時間数	学年別計画時期		
			1年	2年	3年
母性看護学概論	1	30	○		
母性看護援助論Ⅰ	1	30		○	
母性看護援助論Ⅱ	1	30		○	
母性看護援助論Ⅲ	1	15			○
合計	4	105	1(30)	2(60)	1(15)

専門分野

科目名	母性看護学概論	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	1	30
担当教員	専任教員・非常勤講師			
科目目標	1. 母性看護の基盤となる概念を理解し、母性看護の意義と役割を理解する 2. 母性看護の取り巻く社会の変遷と現状を理解する 3. 母性に関連した関係法規を理解する 4. 女性の生涯を通じての性と生殖に関する健康問題を理解する 5. 母性看護における倫理的問題を理解し、看護者としての倫理観を基に女性の尊厳と擁護を考える 6. 新生児の特徴を理解できる			
DP との 関 連 性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容		授業方法	
1	母性看護の基盤となる概念		講義	
2	母性看護の基盤となる概念		講義	
3	母性看護の対象理解		講義	
4	ライフステージ各期の看護		講義	
5	ライフステージ各期の看護・母性看護における倫理		講義	
6	リプロダクティブヘルスケア		グループワーク	
7	リプロダクティブヘルスケア		グループワーク	
8	母性看護を取り巻く社会の変遷と母子保健施策・母子保健統計		講義	
9	母性看護を取り巻く社会の変遷と母子保健施策・母子保健統計		講義	
10	母性看護を取り巻く社会の変遷と母子保健施策・関係法規		講義	
11	母性看護を取り巻く社会の変遷と母子保健施策・関係法規		講義	
12	母性看護を取り巻く社会の変遷と母子保健施策・関係法規		講義	
13	母性看護の対象理解(新生児)		講義	
14	母性看護の対象理解(新生児)		講義	
15	まとめ 筆記試験		講義	
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	母性看護学概論 医学書院 母性看護学各論 医学書院			
実務経験	本科目は助産師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名		母性看護援助論Ⅰ	開講時期	単位数	時間数
			2 年次前期	1	30
担当教員		非常勤講師			
科目目標		1. 女性のライフステージ各期の特徴と健康問題、女性特有の疾患を理解する 2. 生殖過程として、妊娠・分娩・産褥期の正常経過と異常(健康障害)を理解する			
DP との 関 連 性		4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法 備考	
1	女性生殖器の形態・機能の変化			講義	
2	女性生殖器の形態・機能の変化(月経周期・妊娠の成立)			講義	
3	女性のライフステージ各期の疾患と治療 (思春期・成熟期)			講義	
4	女性のライフステージ各期の疾患と治療 (更年期・老年期)			講義	
5	女性生殖器疾患の症状と検査・治療			講義	
6	女性生殖器疾患の手術・治療			講義	
7	人の生殖について (遺伝相談・不妊治療)			講義	
8	妊娠期の理解(正常妊娠)			講義	
9	妊娠期の理解(異常妊娠)			講義	
10	妊娠期の理解(異常妊娠)			講義	
11	分娩期の理解(正常分娩)			講義	
12	分娩期の理解(胎児心拍モニター・NCPR)			講義	
13	分娩期の理解(異常分娩)			講義	
14	産褥期の理解			講義	
15	まとめ・試験			講義	
評価方法		筆記試験 100 点			
教科書		医学書院 母性看護学概論 医学書院 母性看護学各論			
実務経験		本科目は産婦人科医師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名		母性看護援助論Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
			2 年次後期	1	30
担当教員		非常勤講師			
科目目標		妊娠・分娩・産褥期・新生児期を理解し、親になる過程や家族適応を支える看護実践のための基礎的知識・技術・態度を習得する			
DP との 関 連 性		3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法	
1	不妊治療と看護			講義	
2	妊娠期における看護			講義	
3	妊娠期における看護			講義	
4	妊娠期における看護			講義	
5	ハイリスク妊婦の看護			講義	
6	分娩期における看護			講義	
7	分娩期における看護			講義	
8	異常分娩の看護			講義	
9	産褥期の看護			講義	
10	産褥期の看護			講義	
11	産褥の異常と看護、児に健康上の問題があるときの看護、児を亡くした褥婦・家族の看護			講義	
12	施設退院後の看護 育児不安と育児支援、産褥期の精神障害の看護			講義	
13	出生直後の児の看護			講義	
14	新生児の異常と看護			講義	
15	新生児の異常と看護			講義	
評価方法		筆記試験 100 点			
教科書		医学書院 母性看護学各論			
実務経験		本科目は助産師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名		母性看護援助論Ⅲ	開講時期	単位数	時間数
			3年次前期	1	15
担当教員		専任教員			
科目目標		母性看護の基盤となる概念を理解し、対象のその人らしさや持てる力を活かし、親になる過程や家族適応にむけたウェルネス看護診断に基づく看護過程を習得する			
DP との 関 連 性		4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法	
1	母性看護過程 ウェルネス看護について			講義・演習	
2	事例を用いた看護計画立案①			協同学習	
3	事例を用いた看護計画立案②			協同学習	
4	事例を用いた看護計画立案③			協同学習	
5	事例を用いた看護計画立案④			協同学習	
6	看護計画発表			グループワーク	
7	看護計画発表			グループワーク	
8	試験(45分)				
評価方法		筆記試験 100 点			
教科書		医学書院 母性看護学概論 医学書院 母性看護学各論			
実務経験		本科目は助産師として実務経験のある教員による授業である			